

## 令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立生江小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。児童数が少なく小規模校である本校の強みを生かすことで個々の児童に手厚い指導ができており、ほとんどの学年で「学力経年調査」の平均正答率が全国平均を上回る結果となっている。さらに「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果についても体力合計点が全国平均を男女とも大きく上回る結果となっている。

また、児童や保護者アンケートや検証資料の結果から、学校が子どもたち一人一人にあった教育活動を行っていることが伺える。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

○本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらい SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3 時間以上と回答する児童の割合を 45% 以下にする。 R7：43.4%（大阪市学力経年調査より）

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

R6：0%（0 人/6 人） R7：40%（2 人/5 人）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、90% 以上にする。 R6：98.8% R7：97.7%

○スマートフォン等の使い方については、学校のきまりに書いて注意喚起はしており、今年度は保護者も参観できる出前授業を実施したが、保護者の参加は 0 名であった。スマートフォン等については、家庭での協力が必要であり、引き続き個人懇談や保護者懇談会、学校・学級だより等で保護者へ啓発する。

○子どもたちの様子をきめ細やかに観察し、保護者や区役所等関係諸機関との連携ができており、不登校児童の数が減少している。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

R6:国語 3 年生 1.15、4 年生 1.02、5 年生 0.98

R7:国語 4 年生 1.00、5 年生 1.11、6 年生 0.92

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

R6:算数 3 年生 1.17、4 年生 1.07、5 年生 1.05

R7:算数 4 年生 1.14、5 年生 1.28、6 年生 0.98

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 97% 以上にする。 R6：96.3% R7：90.2%

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 98% 以上にする。 R6：97.6% R7：93.7%

○小学校学力経年調査の児童質問紙における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 83.3% 以上とする。 R6：83.3% R7：83.6%

○専科指導や個々の状況を把握して入り込み指導を行うことで、個に応じた指導を行うことができている。授業においても、学校全体の共通した取組として、ハンドサインを用いて、発表や交流の活性化が図られ、聞き方、話し方についての掲示物も活用し、対話や交流を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている。

しかしながら、一部の学年で児童数が少ないため、交流活動の工夫が必要である。

○これまでのかけあし週間、なわとび週間などに加えて、今年度はスポーツ週間を実施し、全校児童で運動する機会をつくることで、さらに体力向上の意識が向上している。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。 R6：81.8% R7：73.0%（1月）

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を87%以上にする。 R6：80% R7：86.7%（1月）

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を21%以下にする。

R6：21.8% R7：17.4%

○毎日2回、「こころの天気」の入力を訴えているが、目標数値を下回った。引き続き、ICT研修を行い教員のICT活用力が向上と児童のICT活用力が向上に努めたい。

○専科指導や会議や研修の日は、流動的に校時を変更して、業務が定時内に終わられるように体制を整えていることで働き方が改善されている。

○週に1回の読書の時間、金曜日朝の読書タイムなど、児童が読書できる時間をしっかりと確保したことで、読書好きが増えている。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

○学校選択性により、かなり児童が減ってきているため、小規模校のメリットを生かした特色ある教育活動をするとともに、行政の支援も必要と感じる。

○入学予定者の保護者等に向けた情報発信の方法も引き続き検討していきたい。

○地域の見守りの際、児童からの自発的な挨拶が少ないので、引き続き、学校でも指導をお願いしたい。